

### 病院の実力「血管の病気」

医療機関別2022年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	大動脈瘤				下肢閉塞性動脈疾患治療 (件)
	胸部		腹部		
	人工血管置換術(件)	ステントグラフト内挿術(件)	人工血管置換術(件)	ステントグラフト内挿術(件)	
<b>大阪府</b>					
国立循環器病研究セ	174	82	50	78	101
大阪公立大	73	15	22	30	58
近畿大	62	45	23	81	79
大阪医科薬科大	57	20	20	39	101
大阪急性期・総合医療セ	52	42	11	49	197
高槻	41	5	4	20	109
大阪市立総合医療セ	39	6	23	19	225
関西医大	31	33	7	78	72
八尾徳洲会総合	25	26	14	46	266
国・大阪医療セ	24	28	6	17	154
桜橋渡辺	24	10	3	3	144
大阪労災	23	15	13	10	137
石切生喜	23	10	23	21	57
大阪赤十字	22	11	10	21	209
関西電力	22	2	5	12	2
堺市立総合医療セ	20	27	19	8	20
ベルランド総合	18	25	1	55	153
済生会中津	18	8	6	7	238
市立東大阪医療セ	16	11	7	14	44
JCHO大阪	13	21	2	15	57
淀川キリスト教	12	13	6	35	115
森之宮	4	36	3	55	564
城山	4	4	1	15	102
関西医大総合医療セ	3	2	0	22	164
耳原総合	2	0	4	0	77
北野	0	2	4	10	56
市立豊中	0	0	2	32	55
日本生命	0	0	1	20	43
府中	0	0	0	0	38
済生会千里	0	0	0	0	23
北摂総合	0	0	0	0	21
りんくう医療セ	—	—	—	—	※40

「国・」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明。※循環器のみの件数。

全国の調査結果は21日の「安心の設計」面に掲載しました。

# 病院の実力

\*大阪編189

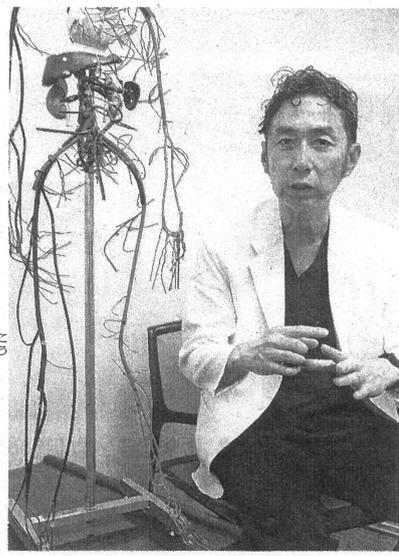
## 血管の病気

— 下肢閉塞性動脈疾患とは。心臓から出た大動脈は枝分かれして、足先へと向かいます。その途中で血管が

細くなったり詰まったりして、十分な血液が足の筋肉や皮膚に流れなくなることで起こる病気です。症状は主に二つあり、中度では歩くたびにふくら

はぎなどが痛む「間欠性跛行」、重症では、足先の傷などをきっかけに組織が壊死して変色する「包括的高度慢性下肢虚血」となりま

す。適切な治療を受けずに放置すると、切断に至る可能性もあります。



「下肢閉塞性動脈疾患の早期発見には、足のケアが大切です」と話す川崎部長（大阪市城東区で）

今回は「血管の病気」を取り上げる。このうち、足の動脈で起こる「下肢閉塞性動脈疾患」を数多く診療する森之宮病院（大阪市城東区）の川崎大三・循環器内科部長に治療法などを聞いた。（松田祐哉）

川崎 大三循環器内科部長

森之宮病院

# 生活習慣の見直し大切

— 発症する年代や原因は。60歳以上で目立ち、女性より男性に多い傾向があります。主な原因は動脈硬化

で、高血圧、糖尿病などの生活習慣病で血管にコレステロールがたまり、血管が狭くなって起きます。人工透析を受ける人は、重症化のリスクが高まります。

— 治療法は。

生活習慣の見直しが何より大切です。その上で、症状や年代によって治療を選択します。

— 早期発見の鍵は。足の傷以外で、はつきりと前兆となるような症状はありません。入浴時に毎日、足をチェックすることが大切です。予防は難しいですが、早期発見、治療ができれば切断を避けられます。

— 森之宮病院の強み。下肢のカテーテル治療を2023年は年間700件以上行っています。

## 大動脈瘤 突然死の恐れ

血管の病気のうち、大動脈瘤は、動脈硬化などで、コブの膨らみが増え、大動脈の壁が裂ける急性大動脈解離は緊急手術が必要だ。突然死に至る恐れがある。

胸部、腹部に分けられる。コブの破裂や、大動脈の壁が裂ける急性大動脈解離は緊急手術が必要だ。突然死に至る恐れがある。

治療法には「人工血管置換術」があり、コブができた部分の血管を切り取り、人工血管に置き換える。コブを取り去るので確実性が高い。「ステントグラフト内挿術」は、カテーテルを使ってバナナ状の金属が付いた人工血管（ステントグラフト）を患部に留め置く。傷口が小さく、体への負担が少ない。

以上行っており、特に重症の患者への治療が強みです。できるだけ切断を回避し、元の状態に戻るよう様々な治療に取り組んでいます。リハビリも充実しています。おり、治療と同時に行うことで歩けるようにサポートしています。

そのため、予防的な治療も大切になる。